

◇平成30年／2018年5月号 第90号◇

会 産経国際書会 報



フジサンケイグループ

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



平成30年度総会で挨拶する飯塚浩彦会長（産経新聞社代表取締役社長）。
35周年の記念イヤーの幕開けに、書会と新聞社一体となつての躍進を誓いました。
4C（Clean＝清潔、Clear＝明朗、Creative＝創造、Character＝品格）の理念のもと、
7月の「第35回記念産経国際書展」、10月の「日本台湾交流書道展」を大成功させ、産経の
名を世界に響かせましょう。



産経新聞社
代表取締役社長
飯塚 浩彦



産経国際書会
理事長
風岡 五城

記念の年に

産経国際書会創立35周年となる新年度が始まりました。今年には産経新聞にとっても創刊85周年の記念の年でもあり、会員の皆様と新聞社が一体となって、これまで以上に書会の活動を推進していきたいと考えております。

35周年事業のひとつ、10月の「2018日本台湾交流書道展」は、産経国際書会にとって18年ぶりとなる海外展となります。皆様とともにぜひとも成功させたいと考えております。また、7月の第35回記念産経国際書展でも、国際の名にふさわしい特別企画が進んでいます。

『書で結ぶ世界と日本～「愛」と「友」展』です。書家が大使館を訪ねて指導することが、書を通じての国際交流そのものであり、世界に「産経」の名を広める貴重な機会となります。また、本展では記念展ということで産経のパワーを示そうと、各会派が競って出品に力を入れていただいたと聞きました。

ジュニア書道コンクールは、毎年出品が増え、今年は1万点の大台を突破する勢いです。

国際書展では、第2分野と複数出品の出品料を見直した今回の施策は継続して参ります。若手から年を重ねた方々、世界に通用する俊英作家から、息長く書き続ける喜びを目指す方々まで、幅広く、書というかけがえのない日本の文化を伝えていくのが書会の使命です。新たな産経の歴史を築くため、ともに頑張りましょう。

今年一年の先生方のご健勝、ご健筆をお祈りいたします。

変化の時をどう生かしていくか

産経国際書会は今年で35回の節目の年を迎えます。この記念の年に合わせて一人でも多くの方にご参加いただけるよう出品要項の一部の改正が行われ、また産経新聞紙上においては「書は人なり」と題して書会各社中の紹介記事の連載がスタートしました。こうした変化が出品数の増にどれほどの効果があるのか、また書会全体の活性化にどう繋がるのか、現時点では未知数の段階です。しかし、ただ言えることは、こうした変化の時をどう捉えどう生かしていくかが大事なことではないかと思えます。

現在、記念事業としては二つのことが進められています。まず一つは「日本台湾交流書道展」です。この件についてはすでに会報87号で概要をお知らせ済みですが、書会としては久々の国際交流でもあり、記念事業の中核となるものです。事前の希望調査によれば、出品点数は審査会員を中心として約200点。また、開幕式に合わせてのツアー参加者も100人以上の規模に達しています。

二つ目は『書で結ぶ世界と日本～「愛」と「友」』と題して、各国の大使に「愛」または「友」の語を毛筆で書いていただき、それを本展会場に額装・展示するものです。いずれも国際書会の名にふさわしい企画で35回展が大いに盛り上がることを期待しています。

書会の皆様には何とぞご支援・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成 **30** 年 産経国際書会総会 開催



総会風景

平成30年度産経国際書会の第34期通常総会が4月17日、東京千代田区の手町サンケイプラザで開かれました。はじめに産経国際書会会長である飯塚浩彦産経新聞社社長から「今年は産経新聞にとっても創刊85周年の記念の年でもあり、会員の皆様と新聞社が一体となって、これまで以上に書会の活動を推進していきたい」と挨拶がありました。議長に風岡五城理事長、議事録署名人に泉芳秋、渡邊祥華常務理事が選出されました。そして、33期事業、決算の報告があり、34期計画、予算などを審議し、各議案とも満場一致で承認されました。



総会後の懇親会

議案

1. 平成29年度・第33期(平成29年4月1日～30年3月31日)の事業報告
2. 平成29年度・第33期(平成29年4月1日～30年3月31日)の収支報告
3. 平成30年度・第34期(平成30年4月1日～31年3月31日)の事業計画
4. 平成30年度・第34期(平成30年4月1日～31年3月31日)の予算
5. 人事案件

第33期 事業報告

◆第34回産経国際書展

審査日 平成29年5月23日(火)～5月26日(金)
会場 シアター1010ギャラリー(東京・北千住駅マルイ11F)
会期 7月27日(木)～8月3日(木)
会場 東京都美術館 ロビー階及び1階
第1、2、3、4展示室(計8室)
作品数5,921点 入場者4,453人
イベント ギャラリートーク:27日(木)金丸亀山副理事長の進行により、高門宮賞の風岡五城理事長、内閣総理大臣賞の青陽如雲常任顧問、韓国文化院長賞の望月暁云常務理事、会長賞の渡辺敦子さん、清水小舟さん、国際大賞の横溝景陽さんが自作を解説。(約150人が参加)
書道講演会:28日(金)14時～15時「硯のはなし」
楠文夫(イエンタイ社長)
約60人が聴講
揮毫会:30日(日)青陽如雲常任顧問、森井翠鳳顧問
各回200人強が集まって熱心に見ていた。

贈賞式・祝賀会 8月1日(火)明治記念館

◆2017産経ジュニア書道コンクール

会期 平成29年7月27日(木)～8月3日(木)
会場 東京都美術館 2階第4展示室
作品数9,322点 入場者数3,871人
贈賞式 7月29日(土)東京都美術館講堂
揮毫会 特別賞受賞者11人が参加し、展示会場で実施

◆東京研修会

会期 平成29年8月19日(土)・20日(日)
会場 群馬研修館(1泊2日)
内容 参加者が実際に「書」を書く事を目的とした。参加者32人(宿泊25人)で実施した。参加者は事前に出された課題などを書き、指導を受けた。2日目はTシャツに字を書き楽しんだ。指導メンバーは、【研修部】勝田晃拓副理事長、五月女紫映常務理事、永田龍石常務理事、木住野栄専管理事、松岡篁月理事、【研修館部】坂本香心副理事長、諸留大穹専管理事の6人と風岡五城理事長が参加。

◆大阪研修会

会期 平成29年9月17日(日)
会場 プリーゼプラザ7階小ホール(大阪市北区梅田)
内容 午前中に山田秀園理事、西尾蘭畦専管理事、久田方塙専管理事、諸留大穹専管理事、正川子葉副理事長の順で模範揮毫を行い、午後は小野亭良常務理事、松井玲月常務理事が「現代書」について講義と模範揮毫を行った。その後、参加者による自由揮毫を行い、各講師が指導をした。申込は136人だったが、当日台風の影響により出席者が104人となった。一般参加者は90人。

◆対外活動

全日本書道連盟「平成29年度(第43回)夏期書道大学」の講師を担当した。
内容 8月4日から6日の3日間、サンシャインで行われた「全日本書道連盟平成29年度夏期書道大学」に草書の講師として、8月4日(金)午後、

風岡五城理事長が産経国際書会として担当。勝田晃拓副理事長、鈴木暁昇評議員の2人が助手を務める。定員一杯の100人が参加した。

◆第34回産経国際書展 東北展

会期 平成29年9月15日(金)～20日(水)
会場 仙台市・せんだいメディアテークギャラリー5階
作品数220点 入場者数 約1,500人
贈賞式 9月18日(月・祝)ホテルメトロポリタン仙台
講演 青陽如雲常任顧問「十七帖の習い方」(贈賞式にて)

◆第34回産経国際書展 中部展

会期 平成29年11月14日(火)～11月19日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー
作品数378点 入場者数 約2,000人
贈賞式 11月18日(土)キャッスルプラザ
作品解説 風岡五城理事長(18日午後3時半から展示会場にて)

◆第34回産経国際書展 瀬戸内展

会期 平成29年11月21日(火)～11月26日(日)
会場 広島県立美術館
作品数299点 入場者数 約2,000人
贈賞式 11月23日(木・祝)広島ガーデンパレス
ワークショップ 「書で繋ぐ平和の輪」と題して21、22日の来場者に筆で文字を書いてもらい1枚1枚を張り合わせ、手をつないだ原爆ドームを取り囲むような大きな作品を作成した。
作品解説 世木田江山実行委員長(常務理事)の進行で寺尾桂翠副理事長はじめ瀬戸内展特別賞受賞者による自作解説が行われた(23日午前、美術館にて)。

◆第34回産経国際書展 関西展

会期 平成29年11月28日(火)～12月3日(日)
会場 大阪市立美術館
作品数379点 入場者数 約3,000人
贈賞式 12月3日(日)天王寺都ホテル

◆平成29年度理事会

会期 平成29年12月4日(月)
会場 大手町サンケイプラザ303・304号室
参加 出席者57人 委任状提出者110人
合計167/187人(89.3%)

◆第34回産経国際書展 新春展

大下見検討会 平成29年9月21日(木)
国立新美術館 地下1階審査室
平成29年12月8日(金)
I(公募)審査 国立新美術館 地下1階審査室
会期 平成30年1月24日(水)～2月5日(月)
会場 国立新美術館
作品数873点 入場者5,785人
ギャリートーク 1月25日(木)11時～正午
山下海堂名誉顧問、岩浅写心副理事長、高橋照弘副理事長、戸叶幽翠常務理事、堀江宣久常務理事、大庭清峰専管理事
講演会 1月25日(木)13時～14時30分
張炳煌(淡江大学教授、中華民国書學會会長)
「台湾書道事情一予右任から現代まで」
贈賞式・祝賀会 1月25日(木)16時～18時
ベニーレベニーレ

第34期 事業計画

◆第35回記念産経国際書展 審査会
会 期 平成30年 5月22日(火)～5月25日(金)
会 場 シアター1010ギャラリー
※5月21日(月)は作品搬入、懇親会

◆2018産経ジュニア書道コンクール 審査会
会 期 平成30年 6月16日(土)～17日(日)
会 場 東京都美術館
地下3階第4作業室B、審査室A・B

◆第35回記念産経国際書展
会 期 平成30年 7月27日(金)～8月3日(金)
※展示替えは30日(月)
会 場 東京都美術館 ロビー階及び1階
第1、2、3、4展示室(計8室)
贈賞式・祝賀会 7月31日(火)明治記念館 16時～

◆2018産経ジュニア書道コンクール
会 期 平成30年 7月27日(金)～8月3日(金)
※展示替えは30日(月)
会 場 東京都美術館 2階第4室
贈 賞 式 7月28日(土)東京都美術館講堂 11時～

◆第35回記念産経国際書展 東北展
会 期 平成30年 9月7日(金)～9月12日(水)
会 場 せんだいメディアテークギャラリー
贈 賞 式 9月9日(日)ホテルメトロポリタン仙台
15時～

◆第35回記念産経国際書展 瀬戸内展
会 期 平成30年 9月25日(火)～9月30日(日)
会 場 広島県立美術館
贈 賞 式 9月29日(土)広島ガーデンパレス
14時～

◆2018日本台湾交流書道展
会 期 平成30年10月27日(土)～11月4日(日)
会 場 台北・国立國父紀念館
開 会 式 10月28日(日)同館講堂 15時～

◆第35回記念産経国際書展 中部展
会 期 平成30年11月13日(火)～11月18日(日)
会 場 名古屋電気文化会館
贈 賞 式 11月18日(日)キャッスルプラザ
16時30分～

◆第35回記念産経国際書展 関西展
会 期 平成30年11月27日(火)～12月2日(日)
会 場 大阪市立美術館
贈 賞 式 12月2日(日)天王寺都ホテル
12時30分～

◆平成30年度理事会
会 期 平成30年12月3日(月)
会 場 大手町サンケイプラザ303・304号室

◆第35回記念産経国際書展 新春展
会 期 平成31年1月23日(水)～2月4日(月)
会 場 国立新美術館
贈賞式・祝賀会 1月31日(木)明治記念館 16時～

第33期 決算と第34期 予算

区分	第33期		第34期	備考
	予算	実績		
収入	会費収入等	92,400,000	93,226,343	95,400,000
	事業費	16,900,000	15,786,328	16,600,000
支出	国際書展出品料	32,550,000	34,265,000	33,870,000
	その他運営費等	42,950,000	44,259,996	44,930,000

会費収入(単位:円)

区分	第33期決算	第34期予算
審査会員	54,347,000	54,630,000
無鑑査会員	18,465,000	21,070,000
会友	19,972,500	19,700,000
計	92,784,500	95,400,000

出品料(単位:円)

区分	第33期決算	第34期予算
審査会員(3万円)	18,000,000	18,600,000
無鑑査会員(2万円)	7,400,000	7,600,000
会友(1.3万円)	7,150,000	7,670,000
計	32,550,000	33,870,000

第 34 期 産経国際書会役員

2018. 4 ~ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚 浩彦						
【最高顧問】	齋藤 香坡	○佐々木月花	田中 鳳柳	村越 龍川			
【会長代行】	伊藤 富博	福本 雅保					
【副 会 長】	○伊藤 欣石						
【名誉顧問】	○生田 博子	石川 天瓦	竹澤 玉鈴	手島 泰六	平方 峰壽		
	本多 道子	山下 海堂					
【常任顧問】	今口 鷺外	○岩下 鳳堂	○岩田 正直	○上野 鶴陽	○小林 静洲		
	佐藤 志雲	佐藤 青苑	島村 谿堂	青陽 如雲	○田村 政晴		
	納谷 古石	原田 圭泉	松本 美娜	○宮崎 春華			
【顧 問】	五十嵐光子	小名 雪王	加藤 深流	白崎 菖汀	樽谷 龍風		
	○橋本 旭石	三上 錦水	森井 翠鳳				
【客員顧問】	霧林 道義	齊藤 華秀	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生		
	趙 白鶴	平方 研水	劉 洪友				
【参 与】	大川 峽暮	岡 美知子	木村 春峰	久保 翠雪	○須藤 松閑		
	夏堀 竹翠	○望月 暁云					
【理 事 長】	風岡 五城						
【理事長代行】	○坂本 香心	渡邊 麗					
【副理事長】	今田 篤洞	岩浅 写心	岩間 清泉	勝田 晃拓	金丸 鬼山		
	○高木 撫松	高頭 子翠	高橋 照弘	武富 明子	正川 子葉		
	○松井 玲月	松崎 龍翠	村田 白葉				
【事務局長】	糸 雅人						
【常務理事】	赤堀 翠柳	浅香 秀子	石井 長慶	石川 陽竹	泉 芳秋		
	磯邊 哲舟	○伊藤 春魁	伊東 玲翠	○今井 翠泉	岩田 蕙雨		
	○岩村 恵雲	上村 陽香	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大橋 玉樹		
	○大庭 清峰	岡本 杏華	小川 艸岑	小名 雪揺	小野 亭良		
	織茂 香葉	貝瀬 芳雨	鎌田悠紀子	黒田 浩芳	見學 素影		
	小杉 修史	五月女紫映	眞田 朱燕	澤田 香墨	○鈴木 青苑		
	○鈴木 祐洞	世木田江山	多田 游硯	○建部 恭子	戸叶 幽翠		
	戸田 汀香	長尾 佳風	永田 龍石	中野 和博	西尾 秀誠		
	野崎 俊江	人見 恵風	堀江 宣久	町山 一祥	山本 晴城		
	吉田 永欽	○吉野 富龍	渡邊 祥華				
【専管理事】	青木 錦舟	○青柳 光草	○安蒜 欣青	○石井 理春	遠藤 香葉		
	遠藤 有翠	○老川 揺舟	奥村 桃曄	小野澤美香	○梶原 碧川		
	加藤 香誓	鴨田 茜竹	菊山 武士	木住野 栄	北川 佳邑		
	北野 香春	木村 大澤	後藤 教子	小林 紫雲	近藤 豊泉		
	○斎藤 秀翠	佐藤 志陽	篠原 秀朋	島田 紫笙	莊司 欣水		
	鈴木 愚山	鈴木 博子	鈴木 蓉春	○富田 静流	○中井 庭峰		

	中野 桂月	中村 雪鷺	西尾 蘭畦	西川 万里	○芳賀 祥緑
	羽根田和香	○林 龍成	久田 方琥	菱沼 東坡	細越 玉蓮
	眞々田壽扇	三橋 和泉	諸留 大穹	渡部美恵子	
【理 事】	生田 佳葉	石井 思水	石井 松苑	伊藤 牙城	岩田 和道
	上田 智子	梅内 春藍	梅原 凜溪	及川 扇翠	大川 詢子
	大澤 芳洲	大田 桂水	○大段 栄泉	○大場 映翠	大八木雅山
	岡野 蒼生	岡村 公裕	○奥 達子	奥村 耕雲	小野 左鷺
	恩田 瑞貞	影山 瑤琴	梶谷 綾泉	○加柴 律子	加藤 竹藜
	加藤 芳珠	川井 恵風	菊地 瑛華	○久米 麗鳳	小泉 玲洸
	小杉 秀花	小林 千津	小宮 求茜	斎藤 修竹	酒井 竹風
	佐武 照聲	鐘 旭孫	沈 彊	菅原 有恒	杉原 静花
	○鈴木 葉光	関根 史山	関根 春峰	瀬戸 桂舟	○高野 彩雲
	高橋 峰雪	武 翠泉	竹内 美翠	竹増 陽	○田島 青谷
	橘 圭子	○田所 香風	田中 龍瀨	○玉木 白雲	○田村 恵子
	○田村 美雪	辻 和雲	鶴田 秀紅	長瀬 沙焱	平岡 雄峰
	平本 一恵	細井 清琴	松岡 輝峰	松岡 篁月	松岡 舟波
	宮川 彪子	宮平 翠玲	村瀬 敢山	室伏 雅篝	山田 華萌
	山田 秀園	山村 鳳羽	○横溝 景陽	吉本 麗竹	○ラモス逸子
	陸 岷卿				
【監 事】	○小名 玉花	○里 芳倫			
【評 議 員】	赤澤 幸峰	有友 啓扇	○飯田恵美子	井形 大正	石井 政子
	石川 杏華	石川 溪舟	石川 秀苑	石川 由美	石黒 鴻羽
	稲葉 竹苑	今井 軒石	岩間 桃香	植田 泰之	黄木 孝一
	大木 翠晃	岡林 御舟	荻野 侑邨	刑部 翠風	小田 りつ
	小谷 翠谷	梶井 香龍	加藤 桂谷	加藤 松亭	加藤 石泉
	加藤 遊墨	河原畑静揚	木谷 峰水	熊切 溪石	○小久保里子
	小嶋カズ子	○小関 麗翠	五戸 光岳	今野 美晃	佐久間撫扇
	定野 桂雪	佐藤マス子	澤村 春泉	篠原 寒鵬	柴山 枝峯
	○清水 小舟	鈴木 暁昇	鈴木 蒼	鈴木 邦仙	須田 紅鸞
	諏訪 春蘭	高田 華光	高野 撫雪	高橋 峰月	橘 黄華
	田端 香峰	玉田 子翠	塚原 桃虹	○津久井桂葉	土田 芳水
	中川なほみ	中島 雪遥	中島 貞鵬	永田 昌子	中塚 龍華
	中平 博子	○中村 蘭香	成山 一葉	長谷川明扇	波多野久美
	羽根田菖風	早坂 喜伊	林 弘子	原田 統玄	○藤井 峯子
	藤村 満恵	○布施 夏翠	降幡 加津	古谷 華楓	古谷 紫水
	星 旭芳	堀川 梨華	前田 聖峰	町田 昌畦	松岡 静仙
	松戸 清玲	松永 光鳳	水原 白姚	三谷 旭心	蓑口 草川
	三宅 秀紅	宮崎 礼子	村越 弘鷹	本橋 春景	森 紀生
	森田 香深	○盛田 理泉	矢崎 藤香	山口 了世	山下 翠風
	山田 娃泉	山本てるみ	横田 玉華	米山 石峯	我妻 信子
	○和田 玲砂	○渡辺 敦子	渡邊 正峰	渡辺 龍泉	

新役員からひとこと

伊藤欣石副会長



昭和59年創立以来34年間、初代林錦洞先生から現在五代目の風岡五城先生まで、歴代理事長がそれぞれ秀でたリーダーシップにより築き上げられた創立理念「CLEAN (クリーン) 清潔」、「CLEAR (クリアー) 明朗」、「CREATIVE (クリエイティブ) 創造」、「CHARACTER (キャラクター) 品格」の4Cを遵守し、新会員の皆様へもその精神が継承されていくよう活動して参ります。また、産経国際書会本来の目的である「書芸術の国際交流・世界各国への文化的貢献」を念頭に、国際性をもった書会創りの一助となりますよう邁進して参ります。ご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

坂本香心理事長代行



産経国際書展も今年35周年を迎える大事な節目の年、一部記念展に向かってすでに「2018日本台湾交流書道展」の視察訪問の報告も出されている中、このたびの理事長代行という大役をいただき戸惑いの中にも、身の引き締まる思いです。今年35回記念展には、新たに大使館(大使)友好揮毫などの興味深い企画案も進んでいるとのこと。事務局の皆様方の日頃のご努力に感謝申し上げます。改めて35回記念展をより一層盛り上げる為にも努力を惜しまず成功を願っております。今後皆様に助けていただき頑張りたいと思います。

高木撫松副理事長



このたび、海游舎書会を代表して、副理事長を務めることになりました。今年は、書会創立35周年の記念展、台湾交流書展と記念の事業があります。良い方向へと前進できますように、会の仲間も共に協力して参りたいと思います。4月には私の住むさいたま市にある埼玉会館に於いて、産経新聞社主催「第34回さいたま閨秀100選展」が開催されました。30年を迎える年月、弟子ともども出品をして成長させていただきました。産経新聞社、産経国際書会との強い絆を感じております。書会が独自のカラーを輝かせ更なる発展をするよう、いつも心掛けていきたいと思っております。どうぞよろしくご支援申し上げます。

松井玲月副理事長



このたび、副理事長という、重責を拝命、一言ご挨拶申し上げます。本年は35回記念展にあたり、また、台湾展もあります。このように大事な年度に、私が、どれだけお役に立てますか。諸先輩と共に精一杯盛り上げられたらと気を引きしめております。書会の理念を第一に、皆様方のご期待にそえますよう、体力をしっかりと維持して頑張る所存ですので、よろしく、ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

新しく審査会員になられた方

五十嵐光泉	井上醉生	岩崎水雅	大崎翠石	大西紫蓉	加藤真風	門山玲花	鎌形美遊	藏 泰中
齋藤欣江	齊藤春欣	佐藤不屈	城田桑軒	進藤栄峰	高橋嘉代	高橋雄喜	玉田栄月	塚原和子
寺岡祥雲	出羽雅陽	利根川秀峰	新田隆一	沼田香雪	福島恭子	藤井玉暎	藤田翠紅	本多久笙
松崎祥花	松本昌雪	三浦茂子	三宅華子	宮島雪峰	村松道倫	山崎幽華	山田幸江	山本美峰
米山美鈴								

新しく無鑑査になられた方

赤坂瑞舞	浅倉めぐみ	池田芳翠	石井翠香	石元城軒	伊藤恵華	伊東星昂	井上すみ子	上釜美由紀
上田綾美	内村才鷺	大泉凜泉	大久保節子	大毛青舟	大沼真弓	大橋芳順	大森翠山	小野寿美子
小野寺聖乗	片岩松琴	加戸秀泉	加藤香雪	加藤翠苑	鎌田嘉壽	河上紋子	菊池美津子	菊間志響
岸 弘子	倉持喜扇	栗原洋子	黒田幸子	桑 祐加	国分敬扇	児玉美登里	小西香苗	小林紫泉
小林樵月	小林智穂	小林邑碩	菰田欣穂	小藪まゆみ	佐伯香潔	坂井節江	坂根冴美	櫻井研堂
佐々木翠萌	佐藤有光	佐野清風	塩川千津	塩原大輔	柴田静翠	清水裕理	鈴木祥扇	須藤恵美子
関 敦恵	代島翠葉	高市翠柳	高崎千蕾	高平肇植	瀧澤龍石	竹内花子	竹之内萌雪	竹花晴夫
武山恵美子	谷川仁美	丹野萩逕	角田雅泉	坪石孝子	土居敞山	徳渕明峰	中根静流	仲野岳城
中村紅舟	中村芝陽	中村青秀	西山揺風	葦塚麗鳳	丹羽新葉	布目京陶	根本芳枝	橋爪玉雪
橋本浪溪	花井萃川	馬場睦子	濱口章子	早川智心	林 加代	平野胡舟	福田圭華	福元万理子
藤原英龍	船木閑清	堀川文恵	眞壁勝子	増田秀光	松井桂翠	松尾香溪	松岡宏美	丸山京華
三井田竹翠	三浦希韶	三浦玉華	水田翔葉	水野玉苑	宮古幸舟	村上徹舟	村山蛭泉	森川圭花
森田東敬	森廣大丘	森脇熒洞	諸橋翠泉	柳澤夢苑	矢野春潮	山田豊鶴	山本操一	横尾春風
吉川妙子	吉田粹京	吉田峰子	和田薫葉	渡辺吾風	渡邊彩花			

新しく会友になられた方

青木映川	青沼希和	安部皓月	阿部葉柳	安齋敬一郎	池田恒弥	石川桜雪	泉 子鳳	磯田竹山
市島春芳	市村翠祥	伊藤恵翠	伊藤深山	稲葉千絵	牛島みゆき	内田子鴻	遠藤幸子	王 援朝
大賀陽子	大久保霜月	太田昭華	大塚宗甫	大友博子	岡野秀水	奥野史子	奥村佳子	尾末静翠
柿川澄石	加藤玉華	加藤 操	加藤洋子	金田寿三枝	鎌田聡泉	上井貴代子	亀村曜子	川口志満子
菊島克月	木津眞由美	木本慈眼	國貞螢炎	久保秀竹	黒川良佳	桑 敏之	河野春徑	河野正子
小島虹凜	五島冴津	小林正祥	小林丁鵬	五月女久枝	阪田佳凜	坂本勝彦	坂本柏堂	櫻本静月
佐藤 恵	佐藤小菊	沢田白洋	白神英憲	白田彩翠	鈴木記久子	鈴木 暢	鈴木游鳳	関塚依己
高砂華泉	高野小百合	高橋岳城	太刀川恵秀	田中秀穂	田中曄仙	程 中	寺門綾香	照井真風
遠山恵美子	中川奎翠	中川龍峰	中島啾鳳	中西 儷	中野康龍	中村美喜	成原たか子	新野彩香
西沢芳子	仁科安博	西本竹風	西山秀光	根岸典和	野口寛舟	野呂トヨ子	萩原靖子	波多野美麗
馬場香雪	原 幽月	平川統雲	平林益雄	福島翔鳳	福谷玉輪	藤田鳳洞	星山碧川	前野容子
増田孝志	松井秋岳	松沼光凜	松村進龍	三品翠月	水落淳子	光谷春煌	美之口琴晴	宮眞由美
宮田博之	民部田鳳春	村上紅恵	森川桂子	八幡華翠	山形修蓉	山下芳舟	山田窓月	山野ひろ江
山吹英夫	若山穩空	渡邊一甘	渡邊真観	渡部大望	渡辺美波	綿貫勝一		

第 34 期 産経国際書会運営委員

- 総務部 担当 副理事長 岩間清泉
部長 浅香秀子
委員 戸叶幽翠、人見恵風
- 会報・広報部 担当 副理事長 高頭子翠
部長 小川艸岑
委員 影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子
- 企画部 担当 副理事長 金丸鬼山
部長 岩村恵雲
委員 大八木雅山、恩田瑞貞、北野香春
- 研修部 担当 副理事長 高橋照弘
部長 五月女紫映
委員 木住野栄、永田龍石、松岡篁月
- 教育部 (ジュニア育成) 担当 副理事長 高橋照弘
部長 眞田朱燕
委員 生田佳葉、小池雅游、高野彩雲、星野葉柳、前田恵泉、宮平翠玲
- 渉外部 担当 理事長代行 坂本香心
委員 遠藤香葉、鎌田悠紀子、鈴木博子
- 研修館 担当 副理事長 高木撫松
委員 小名雪揺、諸留大穹、室井正雲
- 会員増加企画(東京) 担当 理事長代行 坂本香心、渡邊 麗
- 会員増加企画(大阪) 担当 副理事長 正川子葉、松井玲月

第 35 回記念産経国際書展 審査員

- 特別選考委員
石川天瓦、伊藤欣石、加藤深流、齋藤香坡、晋鷗、青陽如雲、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、原田圭泉、堀 晃和、村越龍川、山下海堂、吉野 毅
- 漢字
青木錦舟、今井軒石、大庭清峰、勝田晃拓、坂本香心、菅井裳雲、高橋翠石、中井庭峰、橋本旭石、久田方瑋、平岡雄峰、堀川梨華、前田聖峰、山本晴城、吉本麗竹
- かな
今口鷺外、岩間桃香、鎌田悠紀子、鈴木 蒼、宮川彪子
- 現代書
青柳光草、生田博子、岡野蒼生、小川艸岑、梶原碧川、佐藤翠香、建部恭子、中西美蕙、正川子葉、町田武山、松井玲月、吉田永欽、渡邊麻衣子
- 篆刻・刻字
石井長慶、岩浅写心、高橋照弘
- 臨書
伊藤春魁、大澤芳洲、風岡五城、森井翠鳳、松崎龍翠
- U23
泉 芳秋、岩間清泉、金丸鬼山、戸田汀香

第 35 回記念産経国際書展実行委員会

- 実行委員長 風岡五城
- 審査本部長 村田白葉
- 審査部 漢字部
 - 部長 今井翠泉 副部長 吉野富龍
 - 委員 恩田瑞貞、石川晴空、北野香春、武 翠泉、本橋春景、横溝景陽
- 審査部 かな、篆刻・刻字、臨書、U23部
 - 部長 浅香秀子 副部長 諸留大穹
 - 委員 諏訪春蘭、関根春峰、土田芳水、平岡智子、松岡篁月
- 審査部 現代書部
 - 部長 永田龍石 副部長 西川万里
 - 委員 進藤栄峰、十亀紫風、長岡輝美、早坂喜伊、平本一恵、ラモス逸子、我妻信子
- 搬出入部 顧問 青陽如雲
 - 部長 磯邊哲舟 副部長 伊東玲翠
 - 委員 梶谷綾泉、小杉秀花、櫻田恵香、佐藤マス子、塚原桃虹、飛世彩水、古谷華楓、細谷紫水、村山蚩泉、矢野春潮
- 陳列部 顧問 岩浅写心、勝田晃拓
 - 部長 山本晴城 副部長 渡邊祥華
 - 委員 阿久津由美、安蒜欣青、泉 芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、五戸光岳、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、和田玲砂
- 図録部 部長 今田篤洞 副部長 岩村恵雲
 - 委員 青木錦舟、大久恵華、岡野蒼生、河原畑静揚、久米麗鳳、近藤豊泉、高橋峰月、武 翠泉、中村蘭香
- 東京部会 部長 武富明子 副部長 黒田浩芳
 - 委員 岩間桃香、久米麗鳳、近藤豊泉、平本一恵、山下翠風
- 東北展 顧問 本多道子、田村政晴
 - 実行委員長 松崎龍翠 副実行委員長 奥村桃擘
 - 事務局長 建部恭子
 - 実行委員 大橋玉樹、小嶋カズ子、田村恵子、芳賀祥緑、宮崎礼子、森 紀生、渡部美恵子、渡辺龍泉
- 瀬戸内展 顧問 宮崎春華、森井翠鳳
 - 実行委員長 世木田江山 副実行委員長 大庭清峰
 - 実行委員 上村陽香、吉本麗竹、大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、田中春畝、曾根小徑、美之口琴晴
- 中部展 顧問 村越龍川、風岡五城
 - 実行委員長 村田白葉 副実行委員長 勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
 - 実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、岡本杏華、奥村耕雲、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍溯、松岡輝峰、村瀬敢山、吉田永欽
- 関西展 顧問 平方峰壽、今口鷺外、樽谷龍風
 - 実行委員長 松井玲月 副実行委員長 正川子葉、久田方瑠
 - 実行委員 小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、西尾蘭畦、生田佳葉、篠原秀朋、竹内美翠、山田秀園、山田姓泉

第34回 産経国際書展 新春展

新春展に思う

新春展も回を重ねることにより、新春の風物詩となった。書展を観に来た人の感想を拾ってみた。一つは会場がとても明るく、バラエティーに富んでいる。驚きを感じる作品が多かった。しばし足を止めた、等。

この「驚きのある作品」という言葉を耳にし、正直うれしかった。芸術の本質はここにあると思うからだ。産経国際書会を立ち上げた当時を思い起こす。幹部の面々は、個性豊かな先生方の集まりで、いわば野武士集団だった。気持ちが高揚し、やってやるぞとの意気が出していた。

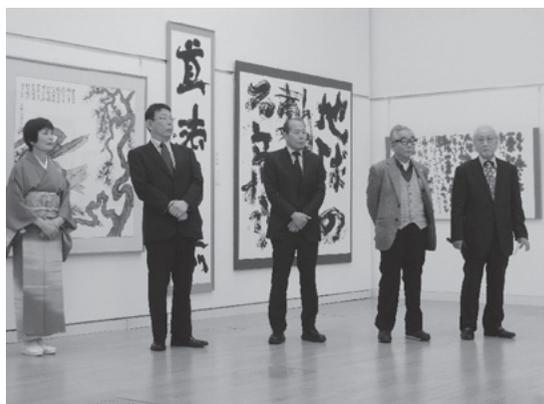
そのような先達者の多くが亡くなり、ここしばらく、平易に流れてきた感があった。この時、この「驚きのある作品」の言葉に、元気と勇気もらった。これから目指す方向はこれだと思う。元気を出して、がむしゃらに前進する先に喜びと、楽しさがあるのだ。



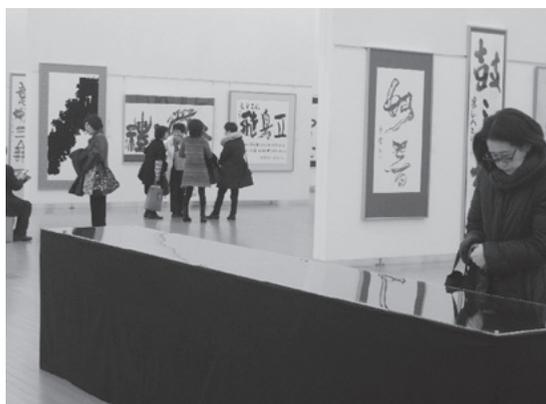
実行委員長 田村政晴



新春展スタート！



ギャラリートークの前に



会場風景



新春展Ⅱの優秀作品の前で



賑わう会場

第34回産経国際書展新春展は1月24日(水)から2月5日(月)までの12日間、東京・六本木の国立新美術館で開催され、5,785人の方で賑わいました。

32回目を迎える「代表展」は215点を展示、審査会員、無鑑査が出品する新春展Ⅰには昨年より19点多い148点が出品されました。また、今年は7点の大作が出品され展示壁面が華やかに彩られました。会友と一般を対象とした公募部門である新春展Ⅱでは昨年を105点も上回る510点の応募があり、会友奨励賞7点、産経新聞社賞7点、奨励賞36点が選ばれました。

25日(木)は、午前中に山下海堂名誉顧問、岩浅写心副理事長、堀江宣久常務理事と大作の高橋照弘副理事長、戸叶幽翠常務理事、大庭清峰専管理事の3人、あわせて6人の先生がギャラリートークを行いました。午後には台湾の書家・張炳煌中華民國書學會会長が「台湾書道事情」と題して講演会を行いました(詳細は14、15p)。また、その日は、場所を表参道のレストランベニーレベニーレにて祝賀会を開催、新春展Ⅱの表彰もあわせて行いました。飯塚浩彦産経新聞社社長、最高顧問の田中鳳柳、村越龍川先生ら約180人が参加、賑やかに新年の交歓を深めました。(事務局)



講演する張炳煌先生



祝賀会にて



大作を見上げて

台湾書家、張炳煌先生(中華民國書學會會長、淡江大学教授) 特別講演(抄録)

「書學今探」～台湾書道事情～



新春展の祝賀会が行われた1月25日、台湾書家の張炳煌先生が、「書學今探」と題して御講演下さいました。張先生は台湾書道界の第一人者で、10月に台北で開催される「2018日本台湾交流書道展」の共催団体、中華民國書學會の会長を務められています。台湾の書道と日本の関わりから始まり、デジタル時代の書道のありかたまで、約200人を前に流ちょうな日本語で、約一時間半にわたって語っていただきました。抄録を掲載します(産経国際書会のHPで全体を読むことができます)。

1月25日 ● 国立新美術館講堂

きょうの話は、「書道のいま」を再考しようということです。書道は2000年ぐらいの伝統がありますが、この2、30年の間にデジタル技術が急速に発展して、若い人を中心に、字を書かなくても良いのではないかと、という疑問が出てきました。長年ずっと書道の普及を手掛けてきて、伝統は何より大切だけれども、昔の考えをずっと守っているだけではいけない、と考へて、そのことをご報告したいと思ひます。

お話したい第一は、台湾書道の歴史と現状です。台湾書道にとって実は、1895年から1945年の日本統治時代は重要な時代です。日本は台湾を統治したときに書道を広めて、日本式の教育をやりました。この時代に日本から多くの書家が来ています。例えば、政治家で台湾総督を務めた児玉源太郎。書家では、丹羽海鶴、山本竟山。最も有名なのは比田井天来です。天来は台湾に3回来て、展覧会と講演会を行いました。講演会には台湾中の書家が集まり、台湾の書道推進との関係は非常に深いと思ひます。さらに、1949年に、国民党政府が大陸から移動したときに、書家や文人が多く台湾に入りました。われわれは渡台書家と呼んでいます。その代表は于右任ですね。于右任は、私は最近100年で大陸・台湾を問わず第一人者だと考へています。この渡台書家と、台湾本土の台湾書家。こちらの代表は、曹秋圃です。こうした流れがあつて、いまの台湾の状況があります。

台湾は大陸と異なり、伝統的な漢字文化が守られています。現在でも正体字(繁体字)が使

われているために、書道と伝統の結び付きを知ることができるのです。漢文の基礎があるので書道の実用性がさらに高く、書道の学習を大事な伝統文化だと考へています。

近年の状況でいうと、学校での書道授業が再び重視されるようになりました。社会教育の現場で、書道の促進が文化活動として行われ、書道作品によってわれわれの普段の生活環境が文化と創作的な空間になっています。李登輝總統の時代から、台北の總統府の前で毎年旧正月に書き初め大会をやっています。總統府の前の広場で交通を止めて、皆で書くのです。一番多いときは1万2000人が集まり、世界記録になりました。今の蔡英文總統も書道の振興に強い関心を持っています。

台湾書道の現在の方向性は、だいたい三つに分けられます。ひとつは、文字を書く書道芸術。伝統の継続ですね。詩書画を合わせて書を重視してやる。もう一つは、視覚的な芸術の書道が発展している。色彩も豊かです。そして最後が書道の生活空間での応用です。

旧正月には、台湾の風習では、必ず自分の家の入り口に、春聯を張ります。春聯というのは赤い紙に縁起の良い対句を書いたものです。私は、約32年前からこの春聯を自分で書こう、という運動を推進しています。春聯は必ず張るものですから、もし自分で書けるなら一番いい。子供がいる家は、子供が書いたものを張るとうれいすよね。この運動は大成功して、台湾のあちこちで春聯の揮毫会が行われています。

これが重要な点で、私の持論は、書道の振興は、生活と融合しないといけない、ということなのです。書道は書道、生活は生活で全然関係ないとすれば、書道の未来は難しくなります。自分の生活の中で身近に書道が存在していて、応用できるとなれば、これは非常に良いことです。そのひとつが春聯というわけです。

大陸と台湾では書法といい、韓国は書芸といいます。日本は書道ですが、みな書のことです。そして書法、書芸、書道以外に、伝統からやや離れた現代書芸があります。私はそれらを全部合わせて、「書學」—書の学問だと思っています。字を書くだけなら、書写。われわれは筆を持って作品を書く。作品には、内容、精神、新たな芸術観—これらが全部入っています。それを「書學」といいます。

伝統的な学習の訓練、基本の筆法として筆を操る方法は大事です。これができたら、次は臨書で、各書体の技法を習得して、それから臨書作品を表現します。次に重要なのは融合。書家になるためにはこれが必要条件です。さまざまな書体、技法を融合してから、自分の考えで、自分の技法で創作する。そして、さらにその他の手本を吸収して再創作する。このとき、感性と思考と文学・芸術および人生経験が必要です。中国語では、「字内功」と「字外功」と言います。字内功というのは習字の中の工夫です。書家になったら、習字以外のいろいろな工夫が入る。字外功です。これを合わせて初めて本当の融合です。最初は手法(技法)。大事なのは技法から心法で、心法に入ると筆の持ち方、技法、どちらも大丈夫になります。手を用いることを通して心を用いる。これが私の考えです。

ただ、今の時代は、難しい問題が出てきました。昔の筆がペンになって、いまはデジタルペン。紙も変わりました。普通の紙から、モニターやデジタル端末になってきた。紙は、大陸でも大問題になっています。政府が環境保護のために木を切れないようにしていて、紙を作る原料がなくなるというのです。書道というのは、昔から伝統を継承してきたのは筆で紙に書く。筆で紙に書くのはいまの時代、いろいろ変化が出てくるのですから、その効果を見なければいけない。造形書道というのはそうした環境で出てきています。環境芸術、インスタレーションですね。書道はただの提示ではなくて、例えば空間の中、インテリアや品物に入れて、いろい

ろ使えるのです。舞踊にも入り、ファッションにも入る。私は、最近では書道と音楽を融合する活動をやっています。音楽の演奏に合わせて揮毫しますが、作品によって音楽が違います。書はほかの芸術と合わせることもできるのです。

書道学習の特色は、文字の教育と文化の涵養。精神の向上ですね。そして芸術美学の習得。精神の向上や集中力をよく高める訓練の性格を持っています。成熟的な技を基礎として、融合、創作して、字外功の学習を結びながら書道は上達していくのです。そこで現代生活と結べば、伝統書法は現代ファッションになるのです。大陸は、書道をユネスコの文化遺産に登録しました。私の考えですが、文化遺産では書道の将来はないと思います。文化遺産とは、滅びそうな文化だから保護する、ということなのです。考え方を変えて、現代ファッションになるならば、保護する必要はありません。

最後に、書道発展の可能性について話したいと思います。

私は淡江大学で「デジタルe筆」というものを研究しています。伝統書道とパソコンの融合です。王羲之とか、懷素の昔の手本を全部分析して筆跡を復活させることができます。紙の印刷だとどうやって書いたのかわからないところある。e筆だと、動画で一画一画から書き方が再現されるので、全部分かる。スピードも調節できます。これは手本の革命ですね。

例えば若い人は習いたくても、先生についている時間があまりない。それがe筆を使えば、簡単に書ける。時代に合わせて伝統の用具をデジタル化して、若者向けに各種の端末で利用可能にするのです。私は大学でe筆課程を持っていて、コンピューター教室でe筆を教え、それから毛筆をやります。e筆・毛筆を合わせて書の練習をすると学習のスピードが速くなり、ものすごく効果があります。

ただ、芸術としての書道を考えて、一番大切なのは、伝統の筆です。書道は、文字の生命力を創造するということです。書道芸術というのは、熟練の技法と書道の素養を持って審美的観念でもって作品を書く。作品に创作者の思想と感情があふれることで鑑賞者を感動させることができ、初めて書道芸術と言えるのです。これから、2、3枚、作品を書きたいと思います。以上が本日の私の話です。ありがとうございました。

創立35年を顧みて

産経国際書会が産声をあげたのは昭和59年4月のことでした。あれから35年の月日が流れ今日に到っていますが、人生に譬えていえば現在35歳の最も活躍が期待される年輪ともいえます。新しい組織は3Cの基本理念を掲げての出発でした。クリーン(清潔)、クリア(明朗)、クリエイティブ(創造)の頭文字です。そして、平成元年にキャラクター(品格)が追加された4Cで今日に到っています。

展覧会の会場も第1回展は新宿センタービル51階、朝日生命ギャラリーで15日間の会期を4期に分けて入選作品を陳列するという厳しいスタートだったと記憶しています。また、この年は毎日展から読売展が独立して第1回展を開催しました。書道界の複雑な事情もあったと思いますが、それぞれの方向性を明確にしての再出発であったと思います。特に新組織の産経に対する期待感もあり、応募する書家も増加、良い作品は良いという評価が出品者にも理解されていったと思われま

最高顧問 田中鳳柳



2回展から池袋サンシャインシティ文化会館に移って開催され、24回展から以降は東京都美術館に会場を確保して今日に到っています。この間の出品者数の推移については、毎日、読売も減少傾向であり、産経もその対応を徹底強化することを考えなければならないと思います。

いま、会報の原稿を書くことになり、第1回展の図録を取り出してみました。そこには審査を担当した16名の懐かしい顔写真が並んでいます(=写真)。僅か16名とはいえ新しい天地で仕事をする決意に満ちた顔は厳しいが、希望に燃える眼が印象に残りました。そして悲しいことに私を除く15名の先生方は現在すでに故人となられていることでした。35年という歳月の重さを想起します。

当時のことを省みると50歳の私は産経という新天地で思う存分伸びやかに先輩達の指導を受け、試行錯誤の連続でありながら創作活動に熱中していったと思います。そしてあらゆる機会に産経書会の運営に関与させていただけたと思っています。こうして自分達の手造りの範囲を充実させてきたのです。

産経書会は毎日、読売にない企画を取り入れることに異論はありませんが、何といたっても作品の内容が問われることになると思います。書会として対処することが困難な場合が多いのはやむを得ないところですが、何か良い方法がないか議論する価値はありそうです。

長い年月では不平不満を無にすることは不可能かも知れません。産経書会には書会独自の展望があってもいいと思います。そして、質量ともに充実することを目指そうではありませんか。今年は10月に産経書会創立35周年を記念した日本台湾交流書道展が開催されます。台湾交流展は平成12年の開催から18年ぶり2回目となりますが、今は書会が全力を挙げて取り組み、交流事業を成功させるよう願ってやみません。

まとまりのない文章ですが、創立35年の思い出を辿ってみました。

<第一回サンケイ国際書展 審査員>



現代書
小川 瓦木



伝統書
遠藤 乾鳳



伝統書
上野 竹舟



伝統書
岩田 紅洋



現代書
國吉 幸舟



現代書
國井 誠海



伝統書
川上 鉄晶



伝統書
小川 南流



伝統書
田中 鳳柳



伝統書
柴田 侑堂



現代書
佐野 丹丘



現代書
斎藤 清芳



伝統書
山田 松鶴



伝統書
林 錦洞



伝統書
十鳥 靈石



現代書
田村 桃溪

「第35回記念産経国際書展」特別色紙展の募集

第35回記念産経国際書展で昨年に引き続き特別色紙展を行います。

この特別色紙展は第21回産経国際書展からはじまり今回で10回目となります。高円宮妃久子殿下から、いつまでも無理なく書に楽しく取り組んでいただけるようにという思いで、毎回御題を下賜していただいております。

下記の要領にて実施いたしますので、資格のある先生方は奮ってご出品ください。

記

御題 「変(變)」あるいは「創」 どちらかを選んでください。
展示場所 東京都美術館ロビー階
期間 平成30年7月27日(金) ～ 8月3日(金)
作品体裁 色紙(273mm×243mm) ※数ミリの誤差はかまいません。
出品料 無料
出品資格 80才以上の会員。但し本展出品者に限ります。
 ※会友以上、昭和13年以前(13年生まれは含む)に生まれた先生
締切 平成30年6月8日(金) 必着
応募 作品に下記出品票を添えて、搬入先まで直接お申し込み下さい。
搬入先 藤和額装(株) 〒234-0054神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
 TEL045-833-5273 FAX045-833-5275

- ◎応募いただいた作品は全て額装して東京本展に展示します(額装代は書会負担)。
- ◎各地方展へは当該地方在住者の作品を展示します。
- ◎作品は展覧会図録に掲載します。
- ◎作品は展覧会終了後、額装のままご返却いたします。

【問合せ】産経国際書会事務局 TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

「2018日本台湾交流書道展」、順調に準備が進む

3月末までに、審査会員を中心に219人の会員から出品の申込みがありました。また、10月28日(日)の開幕式、祝賀会、台湾書道家との交流会に参加希望の先生方は、111人です。ジュニア展優秀賞の招待者、スタッフなどを入れれば約130人の訪台団となる予定です。宿泊はアンバサダーホテル台北に決定、旅行代金も3泊4日14万8,000円、2泊3日13万2,000円と予定より低料金で抑えることができました。夕食については、フリーにしていますので気のあった方々と自由にお好きなお店を選んで楽しむことができます。

今後のスケジュールですが、以下の通りを予定しています。

1. 作品の出品締切は7月14日(土)、日本書道専門学校へ必着。出品料も同時に振込。
2. 事務局で出品作品を整理し、8月中旬に作品を台湾へ持込、撮影、軸装など準備を行う。図録編集チェックは日本側で行い、台湾で印刷。
3. 9月初めまでには、旅行会社から具体的かつ詳細な旅行の案内をお送りします。
4. 10月26日、作品の陳列、名札貼付には日本側が立ち会います。
ご質問などは書会事務局(T E L 03-3275-8902)までお願いします。(事務局)

◎作品の応募状況 半切(135×35)164点、全紙2分の1(68×70)55点 計219点

◎台湾訪問団の状況

発着地(日本)	羽田	名古屋	関西	広島	合計	旅行代金
10/27～10/29(2泊3日)	21人	1人	14人	3人	39人	132,000円
10/27～10/30(3泊4日)	49人	14人	11人	0	74人	148,000円
合計	70人	15人	25人	3人	113人	

※ジュニア書道招待者(父兄含め)約10人、書会スタッフ2人、産経スタッフ・関係者4人

※ホテルはアンバサダーホテル台北(国賓大飯店台北)、旅行代金には朝・昼食、28日祝賀会費用が含まれています。

夕食は含まれていませんので各自、お好きなレストランでお取りいただけます。(以上4月末日現在)

アラカルト

菅原有恒理事が創立35周年を祝う自詠詩

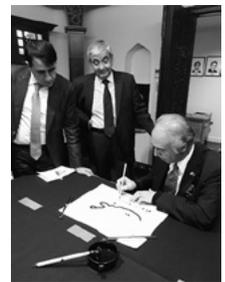
産経国際書会は、お陰様で昭和59年9月の創立から35周年を迎えました。これを祝して、理事の菅原有恒(全日本漢詩連盟常務理事)さんが漢詩を自詠自書しました。明知(Clear)、清潔(Clean)、品格(Character)、創生(Creative)と書会基本理念の4Cを詠みこみました。(事務局)

賀産経国際書會設立三十五周年
平和に貢献するの旨
昭和甲子(昭和五十九年)の初
明知 清潔の志
品格 創生の書
七五(三十五年)輪虎に問ひ
百千(百千年)墨猪に依る
扶桑(日本)文化の粋
青史(歴史)に居諸(年月)を刻まん



第35回記念産経国際書展 特別企画「書で結ぶ世界と日本」

7月の産経国際書展で35回記念の特別企画として行われる『書で結ぶ世界と日本～「愛」と「友」展』の準備が、総務部(岩間清泉担当副理事長、浅香秀子部長)、企画部(金丸鬼山担当副理事長、岩村恵雲部長)合同で進んでいます。世界各国の大使館を訪ねて、大使に書を指導し、原則、その国の言葉で「愛」または「友」と書いていただき、展示するもの。平成16年の第21回展で、高円宮妃殿下のご発案のもと行われた『「世界の言葉で「ありがとう」展』を受け継ぐ内容です。現在までに、米国のハガティ大使、英国のマデン大使、ロシアのピリチェフスキー公使、韓国文化院の金現煥院長らが揮毫。最終的に20カ国近くの参加が見込まれています。インドネシアのタスリフ大使は、揮毫後、夫人同伴で当時開催中の新春展をご観覧になり、大使館での指導自体が、格好の国際交流となっています。



「愛」と書いたハシル・モハバット アフガニスタン・イスラム共和国大使

(事務局)

村越龍川最高顧問 文化庁長官表彰受賞祝賀会



お孫さんの田中凜太郎君から花束を贈られる村越先生

最高顧問、村越龍川先生(88)の平成29年度文化庁長官表彰を祝う日本書芸心龍会の表彰祝賀会が2月25日、クラウンパレス浜松で行われました。地元選出の塩谷立衆院議員(元文科相)のほか、書会からは山下海堂名誉顧問、青陽如雲、原田圭泉常任顧問、渡邊麗理事長代行など書会幹部、心龍会関係者ら約280人が出席。会場には、第34回本展に出品された作品や、文化庁からの表彰状、12月15日に文科省で行われた表彰式の写真が飾られ、ジャズの生演奏が流されるなか、和やかなお祝いの宴となりました。村越先生は、「来年は卒寿となるが、書の道に邁進する所存」とあいさつ。ますますの精進を誓われていました。(事務局)

第21回「國井誠海賞」に上田綾美氏ら

現代書の次代を担う若手書家を顕彰する「第21回公益信託 國井誠海書奨励基金」の受賞者に産経国際書会会友の上田綾美氏(誠心社)が選ばれました。ほかに奥平将太氏(独立書人団)、川本大幽氏(幽玄書道会)の2人が受賞。同基金は、産経国際書会の創立メンバーのひとり、國井誠海氏が平成8年に文化庁長官表彰を受けたことを記念して設立。50歳未満の書家を対象に顕彰、現在までに第1回からの受賞者は合計63人となっています。



「書は人なり」連載始まる



産経国際書会35周年を記念した書道連載「書は人なり」が1月から東西の産経新聞紙上で始まりしました。書会を長年支えてきた各社中の歴史、日頃の活動などにスポットを当てる内容で、書会としては初の全国版連載となります(東西で掲載日は異なります)。1月の第1回は佐々木月花最高顧問が会長をつとめる臨泉会、2月は関西の今口鷺外常任顧問が主宰するあしで會、3月は故林錦洞初代理事長が会長をつとめた菽水書人社を特集。基本的に毎月、東西の社中を、交互に紹介していく予定です。ぜひご愛読ください。

定期購読のお申し込みはフリーダイヤル0120-34-4646、または産経新聞東京本社販売局お客様センター ☎03-3275-8630まで。また、掲載された記事は書会ホームページでも見ることができます。(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈平成30年5月～9月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

5月

第7回弥生書展

- ①5月7日(月)～5月12日(土)
- ②小津ギャラリー
- ③高木 撫松

書人クラブ—21世紀18年展—

- ①5月11日(金)～5月13日(日)
- ②フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ
- ③岩村 恵雲

翠香会書展

- ①5月16日(水)～5月20日(日)
- ②君津市生涯学習交流センター
- ③齊藤 春欣

第43回梓書道会展

- ①5月19日(土)～5月20日(日)
- ②タワーホール船堀
- ③市原 蘇水

第45回記念鍾雲書道展覧会

- ①5月19日(土)～5月20日(日)
- ②寄居町立総合体育館・アタゴ記念館
- ③大澤 芳洲

6月

第4回ゼロ書展<表現芸術の仲間>

- ①6月5日(火)～6月9日(土)
- ②ギャラリーやまざき
- ③齋藤 香枝

第12回京都佳趣会書展

- ①6月15日(金)～6月17日(日)
- ②京都文化博物館5階
- ③長尾 佳風

“2018”臨泉会選抜小品展

- ①6月19日(火)～6月24日(日)
- ②東京銀座鳩居堂 4F
- ③佐々木 月花

第54回書峰展

- ①6月23日(土)～6月24日(日)
- ②秩父 じばさんセンター
- ③田島 青谷

香風書道会社中展

- ①6月26(火)～7月1日(日)
- ②大丸藤井セントラル スカイホール サザンギャラリー(札幌)
- ③田所 香風

7月

日露友好画展四人展

- ①7月6日(金)～7月20日(金)
- ②ウラジオストク 経済大学博物館
- ③鎌田 悠紀子

音羽書アートの会(第10回展)—20周年記念—

- ①7月21日(土)～7月23日(月)
- ②文京ギャラリーシビック 展示室A・B
- ③諸留 大穹

8月

第47回墨林総合書展 併催 第47回学生墨林総合書展

- ①8月5日(日)～8月11日(土)
- ②東京都美術館2階第1展示室
- ③遠藤 乾翠

第41回墨晨書展“墨の祭り”

- ①8月17日(金)～8月20日(月)
- ②埼玉会館
- ③岩田 正直

9月

第35回日本総合書作院展

- ①9月4日(火)～9月9日(日)
- ②大阪市立美術館
- ③篠原 秀朋

第33回全国臨書摸刻展

- ①9月7日(金)～9月9日(日)
- ②埼玉会館
- ③岩浅 写心

書業50年記念 第8回野崎俊江展

- ①9月11日(火)～9月16日(日)
- ②銀座鳩居堂4F画廊
- ③野崎 俊江

groupF2018展vol.3

- ①9月12日(水)～9月17日(月)
- ②ギャラリー風雅(大阪)
- ③井上 空咲

2018年誠心社現代書展小品展

- ①9月13日(木)～9月18日(火)
- ②上野の森美術館ギャラリー
- ③渡邊 麗

第8回明扇書藝會発表会 Part1

- ①9月15日(土)～9月17日(月)
- ②長野市芸術館アクトスペース
- ③長谷川 明扇

第88回(公募)斯華会書道展

- ①9月21日(金)～9月23日(日)
- ②東京銀座画廊 7階F室
- ③小野 之右

追悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

評議員 櫻井 溪雲(平成30年2月) 会友 北古賀篤風(平成30年1月)

編集後記

平昌オリンピックが盛大に開催され、無事に閉幕いたしました。日本は日本選手団の活躍でたいへん立派な成績を残し、まことに喜ばしい限りで、2年後の東京オリンピックが楽しみに待たれるところです。

さて、書会といたしましては記念すべき年を迎え、行事が目白押しで、皆様、緊張と希望の年になることと思います。「第34回新春展」が2018年の幕開けとなり、会場は大作をはじめ多彩な作品群が並び、多くの来場者で賑わいました。「第35回記念産経国際書展」並びに「2018産経ジュニア書道コンクール」が、東京都美術館で同時開催となり、更なる一体感を深めることと思います。ジュニアの出品点数は年々うなぎ登りの盛況を呈しており、これからの担い手として、大いに期待されております。

そして、10月には創立35周年記念として、「2018日本台湾交流書道展」が、台北国立國父紀念館で開催されます。産経国際書会の先生方の出品点数は200点を超え、台湾の先生方の出品約30点が共に展示されます。18年ぶりの台湾展、新たな取り組みの気力溢れる作品群に目をみはられることでしょう。

第35回展に向けて、各運営・実行委員会も発表され、力強く始動しました。会員皆様で、力を合わせ、魅力ある国際書会を目指して参りたいと思います。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行 平成30年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。